慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

| | |
|---|---|
| Title | 古版経済書解題 一千八百二十六年版ナッソー・ウィリアム・シィニィオアの 経済学序講 |
| Sub Title | |
| Author | 高橋, 誠一郎 |
| Publisher | 慶應義塾理財学会 |
| Publication year | 1941 |
| Jtitle | 三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.35, No.2 (1941. 2) ,p.233(89)- 240(96) |
| JaLC DOI | 10.14991/001.19410201-0089 |
| Abstract | |
| Notes | |
| Genre | Journal Article |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19410201-0089 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

さうする方が、國民に一般的に貯蓄させることが出來、戰時負擔の均衡も可能ならしめると思ふのである。しかし其の方法如何といふことになると、仲々困難を伴ふのであつて、貯蓄組合、公債共同保管制度、社會保險の實施、所得に比例する一般的貯蓄、租稅證券又は貯蓄證券の發行等種々の方策があることは前述の通りであるが、恐らく理想的の體系としては、所得に比例する一般的貯蓄を根幹とし、それに他種の方策を併用するにあるのではなからうか。孰れにしても、國民購買力の吸收を一段と强化することは緊切であり、之を遂行してこそ資金の循環が圓滑になるのであつて、この事は新事態に於ける中核問題の一つを占めるものである。

# 古版經濟書解題

一千八百二十六年版ナッソー・ウィリアム・シニィオアの『經濟學序講』

高橋誠一郎

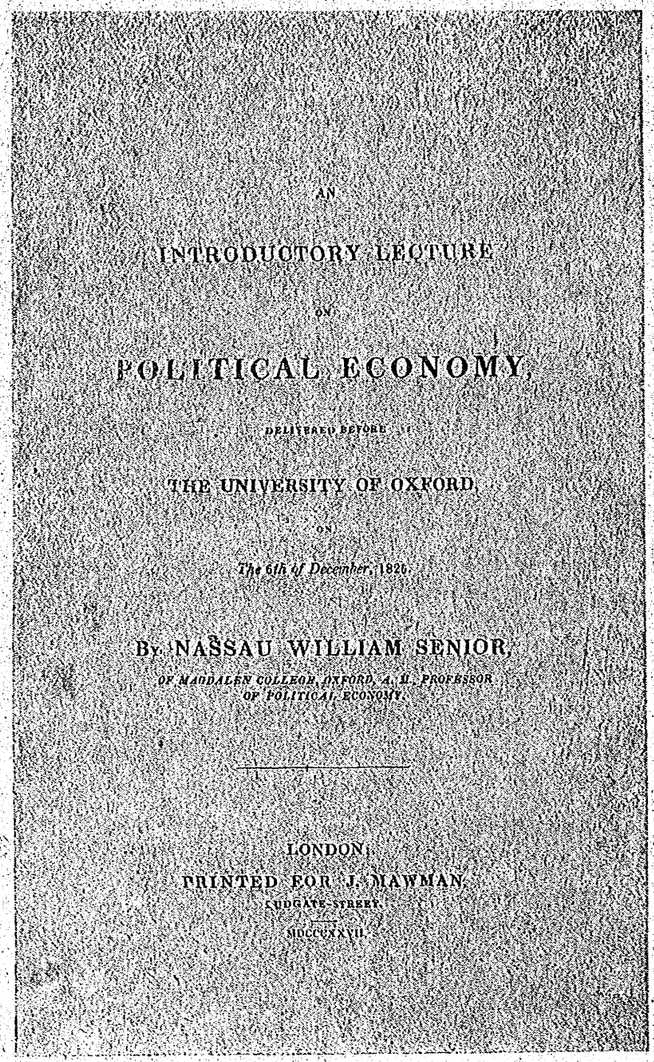
## 一

デーヴィッド・リカードオの死後四分の一世紀間に於ける最も輝かしい英國經濟學者であり、「訪問記筆者中の巨擘」(prince of interviewers)と稱せられてゐるナッソー・ウィリアム・シニィオアは、一千七百九十年九月二十六日、ウィルトシャ郡ダーンフォード教區(ヴィカー)權牧師ジョン・レーヴン・シニィオア(John Raven Senior)の十子中の長男として、バークシャ郡のクロンプトン・ビーチャムに生れた。彼れは一千八百〇三年七月四日、イートン校に入り、同七年、牛津のマグダレン・コレッヂの特待生(demy)と爲り、一千八百十一年、古典文學(literae humaniores)の試驗に於いて第一級を贏ち得、十二年、牛津のバチィラア・オブ・アーツ並びにマグダレン・コレッヂの特待校友試補(Probationary Fellow)と爲り、十三年、牛津のヴィネリアン・スカラーに擧げられ、十五年にはマスター・オブ・アーツの稱號を取得した。彼れは一千八百十年九月十九日、リンカン法學院に入り、同十三年、辯護士の資格を得るが爲めにサグデン(Edward Burtenshaw Sugden)の事務所に入り、同十七年、不動産讓渡證書作成業者たるの公認

を得、同十九年六月二日、辯護士の免許を受け、同二十一年、ジ・ン・メーア（John Mair）の女メーリィ・シャーロット（Mary Charlotte）と結婚して、ケンシントン・スクレーアに居を卜した。

シィニィオアは夙に經濟問題に興味を有し、其の青年期を地方教區に過して、英國の村落住民の慘憺たる狀態を目睹し、年二十五にして英國貧民階級の狀態を改善せんことを決意し、救貧法の改正を企圖した。彼れは一千八百二十一年、三十一歲にして『季評』（Quarterly Review）七月號に『穀法』（Corn Laws）に關する論文を發表して經濟學界にデビューした。此の論文は、下院に於ける委員會の一報告書に對する批評であつて、自由貿易論を表明すると共に、生產、價値、賃子、利潤、貨銀及び課稅の一般原理に關する重要なる觀察を包含するものであり、匿名ではあるが、シィニィオアの筆に成れるものと看做され、リアン・リーヴィ（S. Leon Levy）は其の原稿を一見せるものゝ如く、『季評』誌上に登載せられたものは之れに幾分の省略を加へたものであると記してゐる。（Industrial Efficiency and Social Economy by Nassau W. Senior. Original MSS. arranged and edited by S. Leon Levy, vol. II, p. 378.）。

シィニィオアは同二十三年、倫敦の有名なる經濟倶樂部の部員と爲り、次いで同二十五年、牛津大學に於ける最初のドラモンド經濟學教授として、英國の銀行家にして又政治家であつたヘンリィ・ドラモンド（Henry Drummond）の力によつて初めて同大學に開設せられた經濟學の講座を擔任することゝ爲つた。彼れは其の後の四個年に於いて八卷の講義草案を記した。是れ等の原稿若しくは其の寫しの大部分は、倫敦「スペクテータァ」誌の元主幹兼發行者故ストレーチ氏（J. St. Leo Strachey）の未亡人であつてシィニィオアの孫女に當るストレーチ女史によつて今猶ほ所藏せられてゐる。是れ等の講義の多くは、或ひは別箇に刊行せられ、或ひは一千八百三十六年に Encyclopaedia



AN

INTRODUCTORY LECTURE

ON

POLITICAL ECONOMY,

DELIVERED BEFORE

THE UNIVERSITY OF OXFORD,

ON

The 6th of December, 1826.

By NASSAU WILLIAM SENIOR,

OF MAGDALEN COLLEGE, OXFORD, A. B. PROFESSOR OF POLITICAL ECONOMY.

LONDON:

PRINTED FOR J. MAWMAN,

LUDGATE-STREET.

MDCCCXXVII.

Metropolitana の「經濟學」の項目として其の初版を出せる彼れの名著 An Outline of the Science of Political Economy. 中に包含せられてゐる。其の中、一千八百二十六—七年の第一教程は一千八百二十六年附の一卷より成り、其の「序講」は一千八百二十六年十二月六日、牛津大學に於いて講述せられ、An Introductory Lecture on Political Economy, delivered before the University of Oxford, on the 6th of December, 1826. と題して、翌二十七年、倫敦ラッドゲート街のモーマン (J. Mawman) から出版せられ、本講座の創立者に献本せられてゐる。玆に寫眞版として掲ぐる所のものは其の扉である。

## 二

其の後年の著『經濟學』に於いては、經濟學が學であつて術ではなく、其の結論が事實の定理であつて敎戒ではないことを主張したシィニィオアも、本講義に於いては、經濟學に對して實際的方面を認めてゐる。即ち、彼れは經濟學を以つて富が何より成り、如何なる要素によつて生産せられ、如何たる法則によつて分配せられ、而して、生産を容易ならしめ分配を規制し各個人に最大可能なる富の高を與ふ可き制度及び慣習が何であるかを敎ふる科學であると做し、而して之れを理論的及び實際的の二大部門に分ち得るものと做した。富の本質、生産及び分配を說明する第一の部門即ち理論的部門は、觀察若しくは意識の結果であり而して殆んど總べての人は是れ等のものを耳にするや否や直ちに彼れの思想に親しいか若しくは少くとも彼れの先存知識中に包含せられるものとして容認する極めて少數の一般命題に依存するを看出さる可きである。其の結論も亦、殆んど其の前提と等しく一般的である。富の本質及び生産に關するものは普遍的に眞である。而して、富の分配に關するものは、例へば、奴隷制度、穀物條例、若しくは救貧條例の場合に於いては、特殊の國々の特殊の制度によつて影響せられ勝ちではあるが　自然的事態は一般準則として設定せられ得るものであり、而して特殊の攪亂的諸原因に由つて生ぜしめらるる異常は後に至つて其の理由を明かにせられ得るものである。(Introductory Lecture, 1827, pp. 7-8.)。

如何なる制度が富に取つて最も有利であるかを確めることを以つて其の任務とする斯學の實際的部門は前者に比して遙かに多難なる研究である。其の前提の多くは、洵に、第一の部門の其れと同一なる證左に依存する、蓋し、是れ等のものは該部門の結論なるが故である。然しながら、そは、數多くして列擧困難であり而して其の實際の成行は屢々外見的のものと著しく相違することある諸現象に依存する多數のものを有する。文明社會の機關は甚しく多數の相對立する原動力によつて運轉せられる。勞働の嫌惡、直接享樂に對する欲求並びに蓄積愛は終始相互に反對作用を爲し、而して是れ等のものは、啻だに相異れる個人に於いてのみならず、人民の全集團に於いても亦、相反する行爲を生ぜしめるものであつて、吾人が過去の行爲に對して諸動機を割り當て、又は一の新動機が生ぜしむ可き行爲を豫言せんと努むるの時には、吾人は兎角最大誤謬に陷り勝ちである。而して、吾人は、吾人が久しく熟知せる諸施設の影響の總べてを探求することが屢々不可能であるとしたならば、猶ほ未だ試みられることのない諸政策の結果を豫言することは遙かに之れよりも困難なる事業でなければならぬ。(ibid., pp. 8-9.)。

シィニィオアに取つては、經濟學の實際的部門と理論的部門の間の區別に對する不注意は、其の結論の確實性に關して行はるゝ意見の相違の多くを生ぜしめたるの觀あるものである。經濟學が論理學又は力學の正確性に接近することを主張する者は、彼れ等の注意を理論的部門に限定したか、若しくは、實際的部門が、往々、特殊の氣候、土壤及び季候を顧慮して特殊の事實から其の前提を引かなければならず、又往々、政府及び知識のあらゆる改變の下に、あらゆる人間の欲情及び物欲の影響を考察しなければならぬことを忘れたかの孰れかでなければならぬ。他

方に於いて、經濟學者の研究の多くを冒す不確實性は輕率にも其の總べてに歸せしめられた。シィニィオアは、是れ等講演の課程に於いて、富の本質、生産及び分配を取り扱ふ斯學の理論的部門が、專ら定義の上に基礎を置かれたものでないあらゆる科學に屬し得る確實性の總べてを許すと做す彼れの叙述の眞なるを立證せんことを期待し、而して彼れは又、實際的部門に於ける多數の結論並びに最高の重要性を有する其れは等しき確實性及び普遍性を有する迄に理論的部門の結論に直接に依存することを明かにせんことを期待する。(ibid., pp. 10-11.)。

次いで、シィニィオアは、富の追求は、德又は知識の追求は固より、名聲の追求に比するも猶ほ遙かに劣れるものであつて、人間の事業中最卑賤なるもの〻一であり、而して富の占有は必ずしも幸福に資することなきが故に、富を以つて唯一の主題とする科學は倫理科學の第一若しくは極めて之れに近きものとして伍するの資格を要求し得ざるものであると云ふが如き、經濟學の研究其の者に對してではないにしろ、少くとも彼れによつて置かれたる其の地位に對する反對論に就いて考察したる後、(ibid., pp. 11 ff.)、經濟學の依存する少數の一般命題を擧示する。

(第一)、富は讓渡し得可く、數量に於いて限定せられ、而して直接若しくは間接に快樂を生じ若しくは苦痛を防ぐ物の總べてより成り、又唯り是れ等のもののみから成る、即ちそは、同意義の措辭を以つてすれば、交換に導かれ易い物の總べてから、(交換の名辭の下に、完全なる賣買と等しく貸借をも包含して)、又は第三の同意義の表現法を使用すれば、價値を有する物の總べてから成る。(第二)、あらゆる人は、能ふ限り尠少なる犧牲を以つて、富を構成する物品の能ふ限り多くを取得せんことを欲求する。(第三)、勞働及び富を生産する他の用具の力は其の産物を更らに其れ以上の生産の手段として使用するに由つて無限に增加せらるゝを得可きである。(第四)、農業上の技倆が依然として同樣であるならば、一定地域内の土地の上に使用せらるゝ附加的勞働は比較的小なる割合の收益を生ずる。而して、(第五)、一定地域の人口は、唯り、倫理的若しくは物質的害惡により、若しくは富を構成する物品、即ち換言すれば、該地域に於ける住民各階級の個人の習慣が彼れ等をして要求せしむる必要品、合宜品及び奢侈品を取得するの手段に於ける不足によつてのみ制限せられる。是れ等諸命題中の第二は意識より來るものであり、其の他は觀察より生ずるものである。シィニィオアは之れに次ぐ彼れの諸講義、恐らくは又、此の年及び翌年の課程の全部を第二命題の例示(蓋し、そは證明を要するとは殆んど稱せられ得ざるを以つてゞある)並びに他のもの〻證明及び例示に充て、而して、彼れの爾後の推論に於いては、彼れは是れ等のもの〻總べてを既知件として採用せんとするのである。(ibid., pp. 35-36.)。

## 三

此の一千八百二十七年版『序講』は僅々三十九頁より成るものであつて、二十八年更らに Pamphleteer の第二十九卷第五十七號として刊行せられてゐる。稿本として傳存する前記講義の第一課中、此の『序講』に次ぐ第二の「富の本質に就いて」は、彼れの主著『經濟學』の六頁より十二頁に亙り、又、第三の「價値の本質に就いて」は、一例證を除くの外、同書の十一頁より二十二頁に亙つて公表せられてゐる。尙ほ現存稿本の中から取り除かれてゐる其の第六、第七及び第八は Three Lectures on the Transmission of the Precious Metals from Country to Country and the Mercantile Theory of Wealth, delivered before the University of Oxford, in June, 1827. と題して一千八百二十八年倫敦アルベマール街のジ・ン・マレーから出版せられ、又、一千九百三十一年『倫敦大學經濟及び政治學稀覯短論篇覆刻叢書』(London School of Economics and Political Science (University of London), Series of Reprints of Scarce Tracts in Economic and Political Science.) の第三號として刊行せられてゐる。稿本第九「富

の種々なる科學的定義に就いて」の一部は『經濟學』の五十三頁から五十六頁に亘つて公表せられてゐると云ふことである。（Marian Bowley, Nassau Senior and Classical Economics, 1937, p. 341.）。吾人が本稿中に紹介せる『序論』中の經濟學一般命題の第一は『經濟學』の六頁に富の定義として掲げられてゐるものと事實上同一であつて、彼れが『經濟學』中に經濟學の四根本命題として掲ぐるものは、『序講』中の第二、第五、第三及び第四に對して些少なる辭句の修正を加へたものである。（cf., Political Economy, 3rd Ed., 1854, p. 26.）。

# 獨逸農民史の資料集と文獻集

## ――ギュンタ・フランツ教授の二編著――

高村象平

Günther Franz 氏は現在イェナ大學教授、既にその編纂にかゝはるものに次の如きがあり、（一）Akten zur Geschichte des Bauernkrieges in Mitteldeutschland. Bd. 1. Hrsg. v. O. Merx und G. Franz. Leipzig. 1923-34. (二) Der deutsche Bauernkrieg in zeitgenössischen Zeugnissen. Hrsg. v. G. Franz. Berlin. 1925. (三) Der deutsche Bauernkrieg. Aktenband. Hrsg. v. G. Franz. München. 1935. 又その主著として（四）Der deutsche Bauernkrieg. München. 1933. があることは人のよく知るところであらう。右の（一）は、第十五世紀より第十六世紀初年に至る間の西部・南部チュウリンゲン地方の農民一揆に關する資料集であつて、メルクス教授の歿後その仕事を繼承せるもの、（三）は、同じ頃の南獨逸における農民の抗告狀を主として集めたもの、但し農民一揆の中心地帶たるシュワルツワルド・オォバァシュワァベン・フランケンに關しては、既に他に公刊されたもの多きを理由として收錄するところ比較的少ない。

かゝる資料集の編纂に當つて農民の苦情・抗告狀を中心としたのはフランツ教授の研究方法に出づるものであつ